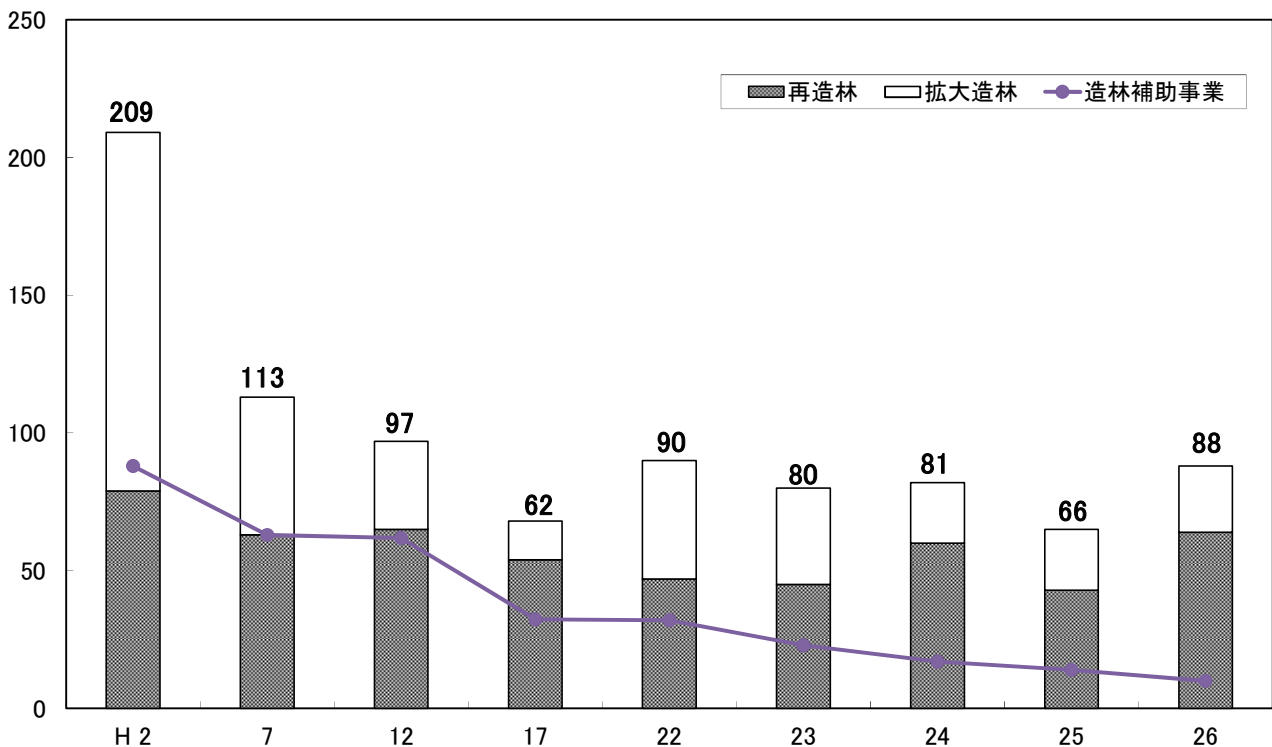


2. 森林の整備

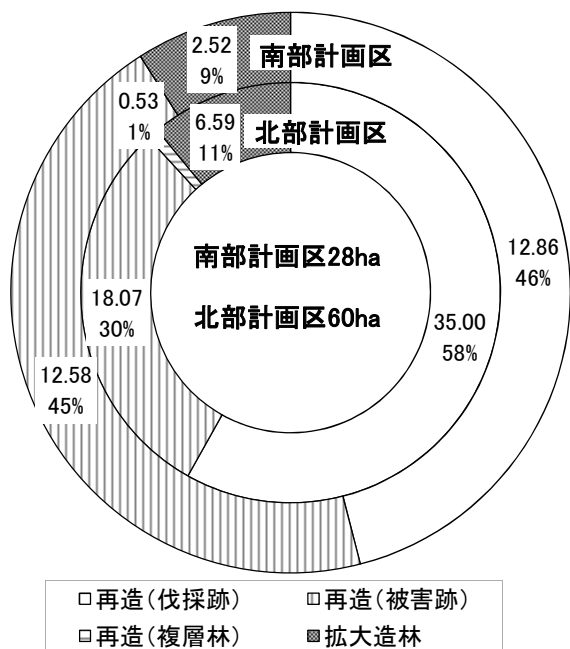
(1) 人工造林

—造林面積は減少傾向—

面積(ha)



造林種別人工造林面積地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成17年度まで大幅に減少した後、21年度に97haまで増加し、25年度まで再び減少傾向となったが、26年度は88haまで増加した。

しかしながら、その内補助造林面積は10haであり、前年度に比べ4ha減少している。なお、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は11%となっている。

造林種別の内訳は、再造林が前年度より21ha増加し64ha、拡大造林も2ha増加し24haとなっている。

26年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より30ha増の60haであり、その内訳は、再造林が54haと90%を占めている。

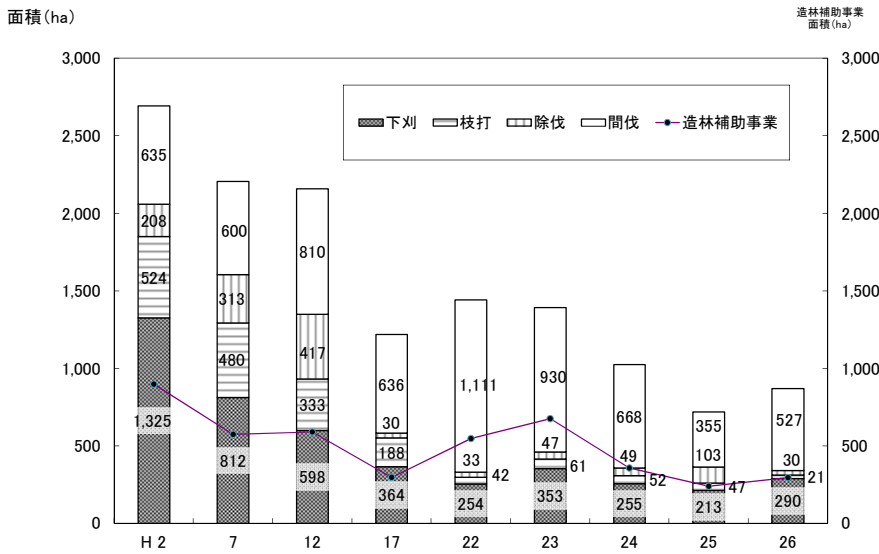
一方、南部計画区は前年度より8ha減の28haであり、内訳は、再造林が25haと89%を占めている。

造林樹種別の面積構成は、スギが31% (27ha)、ヒノキ8% (7ha)、マツ26% (23ha)、広葉樹35% (31ha)であり、前年度に比べ広葉樹の割合が15%増加し、ヒノキは同程度、スギ、マツは減少している。

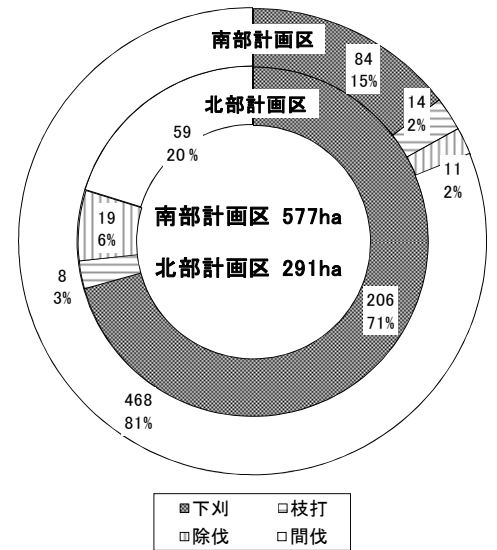
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積は減少傾向—

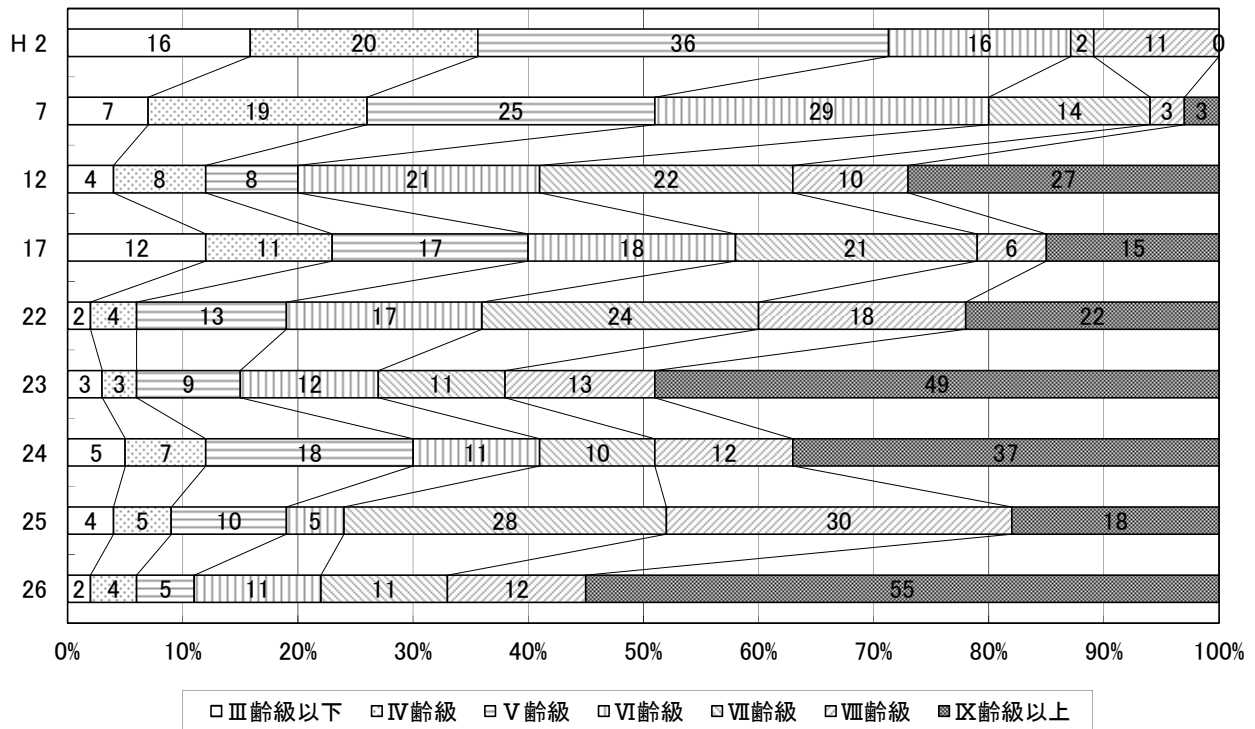
間伐・保育面積の推移



地域別間伐・保育面積 (ha)



単位：% 間伐の齢級構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、17年度まで減少した後、21年度に1,473haまで増加したが再び減少傾向にある。26年度については前年度から147ha増加の868haとなった。種類別には、除間伐が前年度から99ha増加し557ha、下刈は77ha増加の290haとなり保育全体で微増した状況となった。

26年度の地域別傾向としては、北部計画区では前年度から26ha増加し291haとなり、南部計画区でも前年度から124ha増加し577haとなっている。種類別内訳については、北部計画区が間伐20%、下刈71%に対して、南部計画区では間伐81%、下刈15%となっている。

間伐実施面積の構成を齢級別にみると、26年度は前年度に比べIX 齢級以上の割合が大幅に増加し55%となり、VIII 齢級以上で見ると間伐全体の78%を占めるなど高齢級化が進行している。